



西念寺

宗 派 浄土真宗本願寺派
総 本 山 西本願寺（京都市下京区堀川通り）
御 本 尊 阿弥陀如来
開 創 往古の開創年号不詳
開 山 往古の開山僧名不詳
開 基 当寺の開基元知 天正年中西念寺に住職す
※ 開基：寺を創立した人



寺 史

西念寺の開基元知は、大江元就（毛利元就）の第五子元秋（史実とは不一致）の孫にあたる人と伝えられています。

元秋は長州藩の浪士で、武者修業中田中嘉右衛門と称しました。長男馬太郎（安太郎の改名）は、既に加路村民で村の大家だったので、元秋も村民となりました。同家所有の土地は、現今の大善寺境内にありました。

嘉右衛門は武芸修業のため、諸国巡遊中から仏心専念していましたが、天正年間（1573～1592）この地に庵寺を建立し、岡田院（別名觀音堂）と称しました。

仏道修業中、東善寺第五世欣嘗上人辞去の後に監守に抜擢され、寛永6（1629）年8月15日に六世を継承し、中興開山と称せられました。同年11月5日に死去。墓標は東善寺境内にあります。

嘉右衛門の長男馬太郎（安太郎）には二人の子どもがあり、長男清兵衛は村の大家と称されるようになり、弟元知は浄土真宗に帰依して、天正年間（1573～1592）に加路西念寺の住職となりました。

一世 元知 住職年数、往生年月などは不明。

二世 乗知 住職年数、往生年月などは不明。

三世 善知 寛文2（1671）年より宝永4（1707）年まで46年間在職。享保2（1717）年、81歳で死去。

四世 普完 三世善知の実弟で、宝永4（1707）年より享保7（1722）年まで15年間在職。享保17（1732）年88歳で死去。

五世 義完 丹後国康雲寺より当山に入寺。享保7（1722）年より宝暦12（1762）年まで41年間在職し、同年76歳で死去。前住をこえて宗学（一宗派の教義・歴史を研究する学問）に精進したといわれています。

六世 秀完 宗学の研鑽に努め、27年間在職し、天明8（1788）年に隠居。文化7（1810）年、86歳で死去。

七世 秀芳 住職を継承して3年後、和州吉野郡大日川村辻室寺にて病没。

八世 了完 但州浜坂村西光寺より迎えたが、在職3年で離山し、帰って西光寺11世に。

九世 恵完 八頭郡智頭光専寺より迎え、享和2（1802）年に住職を継承。

文化5（1808）年恵完37歳、秀完84歳、義完10歳の時、建立以来百数十年を経て老朽した道場を、現在地に移転建立しました。

恵完は文化 13(1816)年まで住職し、天保 5(1834)年に 76 歳で死去。この時天保の飢饉は既に始まつており、死者は倍増し、8 年には 67 名に達しました。

十世 義完 天保の飢饉の困窮者救済に力を尽くし、元治元(1864)年 65 歳で死去。

十一世 諦完 元治元(1864)年より明治 29(1896)年まで住職。明治初年に智頭より旧屋を求め、解屋して千代川で運び、現在地に庫裏として改築。大正 3(1914)年 80 歳で死去。

十二世 龍拳 倉吉市妙寂寺より明治 23(1890)年入寺。同 29(1896)年住職継承し、昭和 9(1934)年 68 歳で死去。教戒師（矯正施設に収容されている人に対して宗教教誨を行う宗教家）として社会福祉に精進。大正 10(1921)年、正七位・親授一等を国及び本山より授与されました。

出典

賀露町自治会（2009）「賀露誌」

